

トウキとミシマサイコで国産生薬の 伝統を守ろう

農林水産研究所

農林水産研究所では、**農林水産省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発（H28～R2年度）」**等に参画し、薬用作物の研究を進めています。

その中で、実需者から国産品の増産への期待が高い**トウキ**と**ミシマサイコ**を対象に、**連絡試験**を担当する**研究機関**と共同で、その**生育環境特性の解明**や**栽培上の問題点を抽出、比較し、各地域に適した栽培体系の確立と増産技術**について検討しました。

連絡試験の参画機関

- 指導・分析担当：医薬健栄研
- 栽培担当試験場、大学：
秋田、新潟
富山、長野
広島、山口
愛媛



トウキ(生薬名:当帰)



目標乾物収量(10aあたり)
200kg ⇒ 250kg

ミシマサイコ(生薬名:柴胡)



目標乾物収量(10aあたり)
50kg ⇒ 60kg

愛媛県などの**暖地平坦部**では、**夏の高温**が**生育障害の主要因**となることから、その**対応策**とともに**暖地の気象条件に適応した新たな作型**を開発し、栽培マニュアルを作成しました。